

しゅんせつ船で工事会社の担当者(手前右)から説明を受ける学生たち



## 港湾工事の現場体感

徳山下松港 大学生、船で巡る

船で海上を巡りながら港湾の役割を学ぶ大学生向けの見学会が、周南市の徳山下松港であった。広島工業大工学部の3年生37人が参加し、しゅんせつの作業船などを見学し最新の港湾工事の現場に触れた。

進路選択の参考にと中国地方整備局宇部港湾・空港整備事務所が開いた。学生を乗せた船は周南市晴海町の棧橋を出発。海沿いに広がるコンビナート企業を背

に、担当者が同港と宇部港が西日本の石炭輸送の拠点であることを説明した。

大量の石炭を積む大型船が航行できるよう海底を掘り下げる工事が進む徳山湾沖も訪れた。海底の土砂をすくい取る作業船に移り、土砂を専用の船に載せる様子も見学した。北村翔さん(20)は「広島市西区は「作業現場を実際に見て港湾工事に興味を湧いた」と話していた。」

(山本真帆)